

地域振興計画

	パブリックコメント(要旨)	意見に対する府の考え方
丹 後	(1)住み続けることができる安心・安全な地域づくりにおいて、「支え合い交通」と書かれているが、「ささえ合い交通」と記載することが正しいのではないか。	
	(2)地域が誇りを持てる活力ある産業づくりにおいて、「丹後鉄道」と書かれているが、「京都丹後鉄道」と記載することが正しいのではないか。	
	(2)地域が誇りを持てる活力ある産業づくりにおいて、「京都産業21」と書かれているが、「(公財)京都産業21」と記載することが正しいのではないか。	
	(3)地域を支える人材の確保・育成において、「…セミナー関係や…」とあるが、「…セミナーや…」と記載する方が分かりやすいのではないか。	
	丹後地域振興計画の数値目標において、「毎年度、基準年を超える新規就農数を確保」の参考年間目標が全角になっているが、半角の方が統一感があると思う。	
	(1)住み続けることができる安心・安全な地域づくりにおいて、阿蘇海の環境改善や天橋立の水上オートバイのことが書かれているが、伊根湾や久美浜湾等でも、環境改善やマリンスポーツの振興及び安全確保に取り組んでほしい。	御指摘を踏まえ、マリンスポーツの安全確保については、更に広域での取組を検討します。 なお、海岸の環境改善やマリンスポーツを活用した取組については、既に取り組んでおります。

地域振興計画

	パブリックコメント(要旨)	意見に対する府の考え方
丹後	世界で最も美しい湾クラブに、久美浜湾も加盟できるよう取り組んでほしい。	宮津湾・伊根湾の加盟については、地元での盛り上がりや熱意を受け、宮津市や伊根町とともに取り組んだものであり、久美浜湾においても地元や京丹後市の意向や取組状況等を踏まえる必要があると考えています。なお、現在久美浜湾を含む京丹後市においては「山陰海岸ジオパーク」の取組を進められており、府としても市と連携した取組を進めてまいります。
	「地域の生活を支える路線バスネットワーク」とあるが、鉄道も含めて公共交通のネットワークだと思うので、「地域の生活を支える鉄道及び路線バスネットワーク」という記載に改めてほしい。	御指摘を踏まえ追記します。
	「京都府北部地域連携都市圏公共交通活性化協議会と連携」とあるが、豊岡市など隣接する市町とも連携を行う必要があることから、京丹後市と豊岡市を結ぶ路線バスを復活させてほしい。	豊岡市をはじめ広域での移動手段については、京都丹後鉄道の利用を促すことにより確保してまいります。
	「京都市発の旅行商品造成などにより誘客を推進」とあるが、京都市にこだわらず、首都圏や京阪神等からの旅行商品をつくってほしい。	首都圏や京阪神など広域からの観光誘客の取組を追加します。
	「丹後管内の直売所が連携して取り組む情報発信や出荷農家数の増加に向けた取組を支援」とあるが、冬季等、直売所の閑散期に、漁業者等が直売所の建物を活用して販売するような取組ができないか。	新たに直売所で水産物を扱うには設備投資も必要になるので、ニーズを探り、今後の検討課題としてまいります。
	数値目標が「地元で就職した者の割合」となっているが、一度も丹後から外に出ないのでは、人生が豊かにならないと思う。大学等卒業後30歳くらいまでのUターン率を数値目標にしてほしい。	Uターンの促進は重要ですが、Uターン率を把握することは困難であり、Uターン者も含んだ移住者数を数値目標に掲げ、取組を進めてまいります。

地域振興計画

	パブリックコメント(要旨)	意見に対する府の考え方
丹後	「国道178号をはじめとする丹後半島一周道路や山陰海岸ジオパーク関係路線の整備を推進します」とあるが、山陰海岸ジオパーク内にある久美浜湾沿いの久美浜湊宮浦明線(西回り線)も記載してほしい。	御指摘を踏まえ、関連道路も含めて追記します。
山城	<p>宇治茶について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・静岡で作られた「やぶきた」は宇治茶に含まれるのか？ ・そもそも宇治茶のブランド定義とは？ ・生産者段階での宇治茶のブランド定義とは？また、誰に向けられたものか？(流通段階で、他府県のお茶が含まれると聞く) ・小売店の段階では、宇治茶ブランドよりお店名のブランドが重きになっているのでは？ ・低価格のペットボトルのお茶が大量に販売される時代となり、宇治茶ブランドの再定義(生産技術も含めて)が必要なのではないか。 	<p>茶の品種は、抹茶や玉露、煎茶など茶種毎に適したものがあり、生産者は収穫時期の早晚性や用途等を考慮して栽培しています。</p> <p>御指摘の「やぶきた」は様々な茶種への適性があることから、全国・京都府ともに生産されていますが、茶道向け抹茶については、京都府では府内で選抜・育成された「あさひ」「さみどり」「うじひかり」などの品種が、その被覆適性の高さから多く使われているところです。</p> <p>「宇治茶」の定義は、府内の茶流通業者と茶生産者からなる茶業団体が、歴史的な経緯も踏まえ、次のとおり、団体の自主ルールを策定し、流通・販売が行われています。</p> <p>「宇治茶は、歴史・文化・地理・気象等総合的な見地に鑑み、宇治茶として、ともに発展してきた当該産地である京都・奈良・滋賀・三重の四府県産茶で、京都府内業者が府内で仕上加工したものである。」</p> <p>個々の品種や茶園別ではなく、ブレンド(合組)技術により、茶が仕上げられて商品となっていくことから、お店毎の商品名で流通されている場合も多く、それが毎年安定した品質で、宇治茶を楽しんでいただけることにもつながっている一面があるかと考えております。</p>
	山城地域振興計画(中間案)の概要の「(2)暮らしを支え、災害に強い持続可能安心・安全の基盤づくり」について、木津川は昔から多くの水害が発生したため、様々な水害対策がとられ、受け継がれてきた。そうした伝統技術を若い方や川辺の自然に感心がある方に知ってもらい、多くの府民に来てもらいたい。	国交省管理の河川における伝統工法について、計画本文で具体的に記述はしませんが、随時の取組として、府が河川の整備等について府民に説明することに努めたいと考えております。